

ねらい：中心人物の言動と場面の描写に着目して読み、作品の初読後の感想の理由や根拠を明確にして交流することで、新たな発見や深まりを感じる読みにつなげる。

出会う 親しむ 生かす

学習活動	1、2 出会い・課題設定 物語を読み、感想を基に学習課題を考え、学習の見通しをもつ。	3 課題追究 行動や性格に関わる語句から、中心人物の人物像を捉える。	4 課題追究 中心人物の心情を捉える。	5 課題追究 中心人物の心情を捉える。	6 課題追究 (本時) 中心人物の心情や行動の変化を捉える。	7、8 課題追究 中心人物の心情や行動の変化を捉える。	9 課題追究 中心人物や対人物の心情の変化を捉える。	10 考えの形成 自分の考える「ごんぎつね」をまとめる。	11 考えの共有 自分の考える「ごんぎつね」を交流する。	12 まとめ 単元の学習を振り返り、学習内容や今後の物語文の学習について考える。	単元終了後の日常生活において	
	① 範読を聞き、物語の大体を捉える。 ② 初発の感想と、そう感じた根拠を書く。 (心に残った・みんなで考えたい・気に入った表現) ③ 難解語句について知る。 ④ 初発の感想を交流する。 ⑤ 学習課題と学習計画を立て、単元名を考える。	① 人物像が分かる叙述にサイドラインを引き、書き込みをする。 ② 気付いたことを交流する。 ③ 「ひとりぼっち」という言葉がもつ意味や印象について話し合う。 ④ 場面から感じる感想を意識しながら振り返りをする。(根拠となる文章には赤線を引く。) 【着目させたい表現】ひとりぼっちの小ぎつね 森の中、昼でも夜でも、いたずらばかり、村へ出てきて	① ごんの心情が分かる叙述にサイドラインを引き、書き込みをする。 ② 気付いたことについて、グループや学級全体で共有する。 ③ 場面から感じる感想を意識しながら振り返りをする。(根拠となる文章には赤線を引く。) 【着目させたい表現】はひ出る、そうっと、びっくりして飛び上がり、横っ飛びに飛び出して、ほっとして、葉の上に	① ごんの心情が分かる叙述にサイドラインを引き、書き込みをする。 ② 気付いたことについて、グループや学級全体で共有する。 ③ 場面から感じる感想を意識しながら振り返りをする。(根拠となる文章には赤線を引く。) 【着目させたい表現】おれと同じ、ひとりぼっちの兵十が、投げ込んで、つぐないをしないといけない	① ごんや兵十の心情が分かる叙述にサイドラインを引き、書き込みをする。 ② 気付いたことについて、グループや学級全体で共有する。 ③ 場面から感じる感想を意識しながら振り返りをする。(根拠となる文章には赤線を引く。) 【着目させたい表現】その明るく、うらぐちからこっそり、ぱたりと倒れ、土間にくりが固めておいてある、ぐったりと目をつぶったまま、ぱたりと	① 作品に対する感想と、その理由に着目し、作品全体を読み返し、気付いたことをまとめる。 ② 同じ視点で感想を書いた児童と意見交流する。 ③ 交流で新たに気付いたことを書き加える。	① 話し合いを基に、どの叙述から自分がどう感じたのか、説明する文章を書く。 ② 学習を振り返り、学んだことをまとめる。					

○ごんは、いたずらばかりしていたから悪いきつね。
○兵十に栗や松茸を毎日持って行っているから、ごんは優しい。
○毎日つぐないをしていたのに、兵十に撃たれてしまって、ごんはかわいそう。
○ごんが殺されてしまった悲しい。
○いたずらばかりしていたのだから、撃たれたのは自業自得。
○ごんを撃った兵十はひどい。
○ごんはなぜつぐないを始めたのかな？
○他の人はどんな感想をもったのかな。

○ずっと穴の中にいて、さみしかった。
○ようやく穴から出られた。やったー。
○3日間ずっと雨で村に行っていなかったけど、みんなどうしているかな。
○見つかったらまずい。そうっと、じっと見てよう。
○兵十に捕まったら殺される。とにかく急いで逃げよう。
○3日も穴の中にいて、ひとりぼっちだったから、ちょっといたずらをしたかっただけ。うなぎを盗もうとは思っていないんだよ。

○兵十の様子がいつもと違うことに気付いたから、ごんはふだんから村人をよく見ている。
○この場面は色がたくさん出てきている。
○「彼岸花がふみ折られて」「死」が連想できる。
○村の様子がいつもと違うから気になって、ごんは、わざわざ村の墓地まで行って確認したり、のび上がって見たりするぐらいだから、誰の葬式か気になっている。
○本当は違うんだけど、兵十のおっかが死んだのは自分がうなぎをぬすんだせいだと思込んで後悔している。

○ごんは、兵十のことを自分と同じひとりぼっちだと思って、勝手に仲間だと思っている。
○ごんは、兵十のおっかを死なせたからつぐないをしないといけないと思っている。
○ごんは、兵十のおっかを死なせたと思込んでいるから、自分と同じ一人ぼっちの兵十を助けた。だからつぐないをしている。
○兵十を助けたくていわしを投げ込んだけど、殴られたと知ったから、自分で栗や松茸を持って行って行った。そのくらい兵十への思いが強い。

○兵十と加助がおれのくりの話をしている。兵十はだれが持って行っているか気付いているのかな？
○きっと帰りも続きの話をするだろう。お念仏が終るまで待ってよう。
○もっと二人の話を聞きたいな。もうちょっとだけ近付いて聞いてみよう。
○なんだ、おれが持って行ってるって気付いてないのか。しょうがないなあ。
○加助、神様じゃないよ、おれが持って行っているんだ。神様がめぐんでるなんて言われたら、おれは引き合わないよ。兵十、おれだよ、ごんだよ、気付いてくれよ。

○栗を持って行ってのは神様じゃなくて、おれだってようやく伝わった。よかった。
○兵十が気付いてくれたからそれでいいや。
○兵十に撃たれたけど、神様じゃなくておれだって分かってもらえたから十分だ。
○いたずらぎつねが悪さをしに来たな。今日こそこらしめてやる。
○栗を持ってきたのはお前だったのか。どうしておれなにか。
○ごん、お前が栗を持ってきてくれたのか。もっと早く気付けばよかった。そうしたら撃たなかったのに。

○ごんが「優しい」と思ったのは、加助に神様からのめぐみだと言われた次の日も「引き合わない」と思っているのに栗を持って行ったからだと気付いた。
○ごんが毎日つぐないをしていたのに、兵十に分かってもらえてなくて撃たれてしまうから「かわいそう」って思ったんだと思う。
○ごんは兵十のうなぎをとったからおっかがあが死んだと思込んでつぐないを始めたけど、そのつぐないが兵十にうまく伝わらなかったから「悲しい」って思ったんだと分かった。
○兵十はひどいと思っていたけど、栗を持ってきているのがごんだと撃つまで知らなかったから、仕方ない。
○ごんは村人にならずにいたんだから撃たれても「自業自得」。でも、ごんはひとりぼっちで、おっかがあが死んだ兵十もひとりぼっちになったと思ったからごんは栗や松茸を持って行ったことが分かったし、ごんはつぐないを始めてからいたずらをしなくなった。いたずらをやめたことが伝わってれば、感じ方は違うかも。

○最初に感じたことについて、「ごんぎつね」を勉強してからその理由を考えたから、何で自分がそう感じたのかが明確になった。
○「悲しい」とか「かわいそう」とか感じたのには理由があった。私たちがそう思うように新見南吉さんがいろいろなしかけをしていた。
○最初は「ひとりぼっちの小ぎつね」ってスラッと読んでいたけど、実は奥が深かった。何気ない言葉でも、物語に大きく影響する言葉があると分かった。これからは、もう少し意識して読んでいきたい。

知識・技能	(1) 言葉の性質や役割による語句のまとまり ○動きや様子、主述関係、修飾関係が読み取れることを理解し、活用すること。										
	(2) 情報の整理 比較や分類の仕方 ○複数の情報(語句や叙述)を比べたり共通の性質(意見の異同)で分けたりして整理すること。										

評価	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	Ⅲ 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。	
	具体的姿 ○学習の見通しをもち、計画や学習課題を積極的に考えたり作成したりしようとしている。	○色彩表現や音響表現、複合語が作品に与えている影響に気付いたり、指示語がごんと兵十の位置関係を示していることに気付いたりしている。	○ごんの独白に着目し、ごんの思い込みからつぐないを始めていることに気付いている。	○毎日くりを届けるごんの行動が次第に大胆になっていくことや、兵十と加助の話を聞こうと近付くごんの様子、落胆ながらも贈物を続けることに着目し、ごんの気持ちの高まりや変容に気付いている。	○自分の感想の根拠となる叙述や言葉に気付いている。	○感想の根拠となる叙述や言葉を基に互いの感想を交流し、その異同を探している。	○交流を生かして、自分の学びを振り返っている。					
	指導に生かす評価(形成的評価)	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	知・技(2)イ 思・判・表 C(1)エ、オ 主体的	

① 語句や表現の工夫に着目し、様子を具体的に想像しながら物語を読んでいる。
② 作品に対して、様々な考え方や感じ方があることに気付く、互いに意見を交流しながら読もうとする。
③ 気持ちや性格、様子を表現する言葉の語彙を増やし、自分が表現するときにも使おうとする。